

月刊「ワークホームだより」4月号

発行:2025年 3月 25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



2024年度を振り返って

ワークホーム高砂 楠 英充

早いものでまた1年が終わろうとしています。この1年はワークホーム高砂にとって本当に大きな変化の1年でした。齋藤前施設長が退任され長谷川施設長のもと新たな体制でスタートを切った春。地球温暖化に伴う酷暑の夏、GOTOさんの直営工場が稼働し滞りが解消した秋、GOTOさんの協力で工場の5日稼働が実現した冬。本当に色々な事が目まぐるしく変化していきました。

以前からワークホーム高砂では、「作業員から支援員へ」というスローガンのもと、利用者支援に重点を置いた働き方を目指してきましたが、目の前の作業に追われ、なかなか達成することができませんでした。しかし作業量が減少することで目指していた形ができるようになってきました。作業量の減少にはいくつかの要因がありました。県民局による立入検査で使用水量の指摘があり、法的に総量規制がかかる事で作業量も制限を受け作業量が減少した事。それを受けGOTOさんが急ピッチで8月に自社直営工場の建設、稼働を行っていただき代替手段ができた事、更に協議の元、GOTOさんの協力を頂き工場の週5日稼働も実現できました。「利用者支援に重点を置いた働き方」の他にも、「自分たちの働く場を綺麗にする」という事も実現でき、職員・利用者が一緒に清掃する時間を持つことができ、「自分たちの働く場」という意識がこれまでよりも強く持てるようになった気がします。働くためには、働くための基盤が重要で、こういった福祉事業所ではより重要であると改めて感じました。利用者さんの仕事の成果は、働くための基盤の基にあり、それを作るのは職員の職務なのだと思います。2025年度は新たに6名の新規利用者さんを迎え、施設外就労という新たな事業にも取り組んでいきます。利用者さんが自分たちの手で仕事の成果を得られるよう、最高のパフォーマンスを発揮できる環境・支援を行っていきたく思います。

2025年度は新たなワークホーム高砂のスタートと位置付け、これまで大切にしてきた物と、これから必要な物、双方を意識し、「ライフステージに応じた段階的な働き方の確立」、「就労支援のノウハウの蓄積」、「常に利用者さんの次のステージを目指した支援」の3つを柱にやっていきたいと思えます。

利用者さんの生活については、今年同様、「自分たちの選択肢を増やす」ということをテーマに体験型の行事を企画し、初めての体験・経験から自分の好きな物を新たに見つける・今までできないと思っていた事もやればできるという事を利用者さんと一緒に探していきたいと思えます。

「できる、できないよりもまずやってみる」ができる事業所をこれからも作っていきたく思います。

4月の予定

4月3日(木)

新規利用者歓迎お花見

※作業は通常通り行いますのでいつも通り通所してください。

4月9日(水)

工賃支給日

新たな挑戦

今年度を持ちまして棒谷 高士さんが退所することになりました。ワークホーム高砂で16年間クリーニング作業に従事していただき、マルチに活躍してくれました。本当に16年間お疲れさまでした！

棒谷 高士さん(ぼうたに たかし)

【本人からの挨拶】



本当に色々なことがあった16年間でした。

ワークで得た経験を新たな地で活かし日々邁進して行きたいと思えます。

今までお世話になり有難うございました。(本人直筆)



【担当職員から一言】

この度、棒谷高士さんがワークホーム高砂を退所することになりました。去年から棒谷さんより、「ステップアップをしたい」と相談を受け、花岡と2人で様々なことにチャレンジしてきました。そして、4月から就労継続支援A型事業所“Fromjob 姫路”という事業所に行くことが決まりました。棒谷さんがステップアップすることができ、担当職員として心より嬉しく思います。16年間ありがとうございました！次の事業所でも頑張ってください！！(花岡)

退職職員

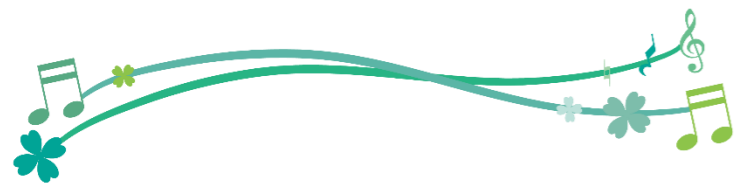
吉中 波緒人
(よしなか なおと)



今年度を持ちまして退職することになりました吉中 波緒人です。嘱託職員で約3年、正規職員で5年務めさせていただきました。入社した当初は右も左も分からなく僕に優しくご指導、ご鞭撻をして頂いた先輩職員の皆さん、日々学びをくれた利用者の皆さん、目まぐるしく変わっていく環境の中で頑張れたのはみなさんのおかげです。

特に、どんな時も一生懸命に作業する利用者さんの姿には刺激をもらう毎日でした。これからも身体を大事に日々頑張ってください。僕も皆さんに負けないよう頑張ります。今まで本当にありがとうございました。(吉中)

今月の担当は、吉中でした。



2024年度「1年を振り返る会」



3月22日(土)に曾根地域交流センターで一年を振り返る会を開催しました。中村会長、亀山副施設長の挨拶から始まり、SMKマジックショー、20周年勤続表彰、一年を振り返るスライドショー、桂支援員、吉田支援員異動の挨拶、吉中支援員退職の挨拶、長谷川施設長の挨拶と盛りだくさんの会となりました。みなさん楽しそうに参加しておられ、企画、準備した甲斐がありました。今年度もたくさんの行事に協力いただいた保護者会をはじめ保護者の皆様、どうもありがとうございました。また、来年度もよりワークホームでの生活が充実するよう、職員一同精進しますのでご協力の程宜しく願います。(重田)

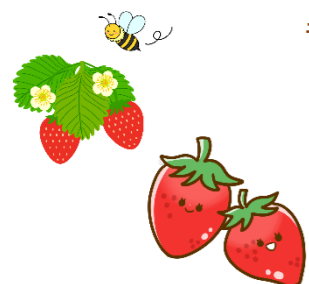


旬を味わう ～いちご狩り～



3月1日土曜日に加古川市志方町にある小林いちご農園(りゅうちゃんのいちご狩り)へ行ってきました。ビールハウスの中はいちごの甘酸っぱい匂いに溢れ、蜂が飛んでいました。利用者さんも赤く大きくなったいちごに大興奮でした。いちご狩りが始まると口いっぱいいちごをほおばり美味しそうに食べていました。

今回、いちご狩りを企画したのは、色々な経験をして欲しい、季節を感じながら生きて欲しいという思いがありました。これからもそんな企画を作っていきたいと思っています。またご要望等ありましたらいつでもお聞かせください。(楠)



新規利用者利用開始

東はりま特別支援学校を卒業された6名の方が新たにワークホーム高砂で一緒に働くことになりました！

昨年度から各々実習を繰り返してきましたが、実習とは違った雰囲気戸惑いや失敗することもあると思いますが、少しずつでも成長していけるよう応援していきたいと思っています。(長瀬)

※次月以降で一人ずつ紹介をしていきたいと思っています。

